

株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先) 電話お問い合わせ先	〒135-8722東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
単元株式数	1,000株
公告方法	日本経済新聞
上場取引所	東京証券取引所 市場第二部
証券コード	7991

● ホームページのご紹介 ●

当社では、ホームページによる情報開示を積極的に行っています。財務情報や最新ニュースを始めとするIRサイトも掲載しており、製品情報・技術情報も含めて随時更新を行っております。是非ご利用ください。

<http://www.mamiya-op.co.jp/>

Mamiya-OP Co.,Ltd.

マミヤ・オーピー株式会社
埼玉県さいたま市南区根岸三丁目23番10号

会 社 概 要

平成19年9月30日現在

商 号	マミヤ・オーピー株式会社
本 店 所 在 地	埼玉県さいたま市南区根岸三丁目23番10号
設 立	昭和23年2月
資 本 金	39億58百万円
従 業 員	122名

事業所及び事業内容

本社・マーケティング本部

〒336-0024埼玉県さいたま市南区根岸三丁目23番10号
Tel 048-710-4800 Fax 048-710-4831
・本社(社長室、監査室、総務、人事、経理)
・マーケティング本部
パチンコ台間玉貸機及び小型券売機等の開発・販売

岩槻事業所

〒337-0004埼玉県さいたま市見沼区卸町二丁目6番21号
Tel 048-680-5201 Fax 048-680-5203
・電子機器の製造及び品質保証

戸田事業所

〒335-0031埼玉県戸田市美女木三丁目5番1号
Tel 048-449-6699 Fax 048-449-6711
・ゴルフシャフト及び遮断桿の開発・販売

役 員

代表取締役社長	滝 沢 三 規	ユナイテッドスポーツテクノロジー・ホールディングス Inc. 取締役会長 ユナイテッドスポーツテクノロジー・LP 取締役会長
常務取締役	山 本 和 孝	マーケティング本部長
取 締 役	鈴 木 登	岩槻事業所長
取 締 役	菅 原 正 巳	戸田事業所長 マミヤ・オーピー (バングラデシュ) Ltd. 取締役会長
取 締 役	鈴 木 聡	ユナイテッドスポーツテクノロジー・ホールディングス Inc. 取締役社長 ユナイテッドスポーツテクノロジー・LP 取締役社長 マミヤ・オーピー (バングラデシュ) Ltd. 取締役社長
取 締 役	峰 島 重 雄	
取 締 役	磯 部 圭 一	
常 勤 監 査 役	志 田 太 利 夫	
監 査 役	関 口 正 夫	
監 査 役	足 立 正 喜	

グループ会社

ユナイテッドスポーツテクノロジー・ホールディングス Inc.
(米国・デラウェア州)

ユナイテッドスポーツテクノロジー・LP (米国・テキサス州)

マミヤ・オーピー(バングラデシュ)Ltd. (バングラデシュ・チッタゴン市)

eyes

第66期 中間報告書

2007.4.1 ▶ 2007.9.30

Interim Report 2007

Mamiya-OP

マミヤ・オーピー株式会社

■経営理念

「ものづくりを通し、信頼性の高い技術と品質をお客様に提供し、豊かな未来を拓いていく」

■経営方針

- 1 利益ある成長 企業活動の源泉である健全なる利益を追求した経営を実行します。
- 2 徹底したお客様志向による信頼性の確保 お客様の目線で「ものづくり」を行い、お客様の満足と信頼を得られる経営を実行します。
- 3 独自分野に果敢に挑戦する開拓精神 失敗を恐れずに、時代を一步リードする独自分野に挑戦する経営を実行します。
- 4 法令等を遵守し、公正かつ良識ある企業活動 すべての役職員が法令等を遵守し、公正誠実な企業活動をとることにより、お客様や社会から信頼され共感を得られる経営を実行します。

■行動指針：MI-5（エムアイファイブ）Mission Improve

5つの使命を掲げ、常に進歩(Improvement)を続け社会に貢献する企業を目指してまいります。



- 1 Mannerism(マンネリズム)の排除=前例主義、現状維持は後退を意味します。常に問題意識を持ち、型に嵌った手法を排除し、自由な発想で仕事に取り組みます。
- 2 Motivation(モチベーション)の向上=意欲なくして進歩はありません。常に高い向上心を持ち、積極的に会社構築に参画します。
- 3 Moral(モラル)の維持=自由を尊重しつつ、組織人・一般社会人に求められる社会規範を守り、秩序ある行動をとります。
- 4 Market(マーケット)志向=お客様目線の発想を徹底し、世の中の動きに敏感に反応する行動をとります。
- 5 Make a profit(プロフィット)=健全なる利益を追求し、結果の出せる行動をとります。

真の改革に取り組むべく、全社員が一丸となり邁進します。



はじめに、日頃当社の経営にご理解とご支援をいただいている皆様に衷心より御礼を申し上げます。

当社は現在、真の改革に取り組むべく会社の行動指針である「MI-5」を作成し、全社員一丸となりこれを推進中でございます。

スローガンは「5つのMの実践による社会貢献と進歩」です。

この行動指針の実践を全社で徹底するとともに、より一層真摯な姿勢でメーカーの原点に立ち返り「真心を込めた丁寧なものづくり」に取り組むことでお客様に満足していただき、豊かな社会に貢献できる企業を目指してまいります。

社員一人ひとりがこの行動指針の下、お客様から信頼と満足をいただけるよう自ら考えそして着実に行動する、それが社会の一員としての責任を果たすことであると考えます。

そのためには事業拡大のための人材育成や技術開発など新しいマミヤ・オーピーの風土作りのために取り組むべき経営課題もございます。

当社はこれらすべての課題を一つ一つ着実に実行し、達成していくことで成長し続けるものと確信しております。

マミヤ・オーピーは常に新しい未来を切り拓くための努力を続けます。どうぞ一層のご支援とご愛顧をお願い申し上げます。

平成19年12月

マミヤ・オーピー株式会社

代表取締役社長 滝沢三規

電子機器事業部門

■ 社会に大きく貢献するエレクトロニクス技術

私たちは、激しい技術革新への対応が求められるこの21世紀において、確かな技術と、皆様からのニーズをマッチングさせた信頼できる製品をご提供することを、第一に考えております。

そして、旺盛な意欲を持って日々製品化に取り組み、無人化、省力化、デジタル識別技術、セキュリティ分野、アミューズメント分野などの製品で社会に大きく貢献してまいります。



カードユニット(メダル貸機・台間玉貸機)



Operal 高性能小型券売機



マルチチャンネル型 薄膜測定器

スポーツ事業部門

■ 世界のトッププロが認めたPROFORCEシャフト革命

私たちは、ゴルファーの変わらぬ夢である「より遠くへ、より正確に飛ばすこと」を実現するために、数々のハイテクを駆使したシャフトを世の中に送り出してきました。そして2007年度においては、4軸織物による「AXIV」シリーズの最新作として、AXIV史上最大の飛距離を実現し、大型ヘッド時代に伴う大きな慣性モーメントに対応した「AXIV-X」を発売

いたしました。また、ジム・フューリック、デービス・ラブⅢ、ロッド・パンプリング、クリスティー・カーの4名とシャフト使用契約を結んだUSTとの連携を強化し「PROFORCE V2」をはじめとするプロフォースブランドの更なる拡販にも努めてまいります。私たちはシャフトを通じて今後ともゴルファーの夢を実現するために進化し続けてまいります。



AXIV-X



ユナイテッドスポーツテクノロジーズ・LP



マミヤ・オービー(バン格拉デシュ)Ltd.



PROFORCE V2

当中間期におけるわが国経済は、米国経済の減速懸念、原油価格の高騰、為替動向等先行きの不透明感が広がりつつも、企業収益の改善や民間設備投資の増加等を背景に景気は緩やかな回復基調で推移しました。

こうした状況の中、当社グループは、既存事業の付加価値向上並びに新製品開発・新規事業分野の開拓に注力してまいりました。

この結果、当中間期の業績におきましては、連結売上高は63億17百万円(前年同期比27.0%減)、営業利益6億93百万円(前年同期比45.7%増)、経常利益6億48百万円(前年同期比187.1%増)となりました。また、特別損益として投資有価証券売却益2億99百万円を計上したこと等により、当中間純利益は8億19百万円(前年同期比90.3%減)となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりです。

● 電子機器事業部門

電子機器事業部門は、主要製品であるパチンコ台間玉貸機につきましては、価格競争及びシェア争いが激化する中、概ね前年同期と同様の売上を確保したものの、メダル貸機の売上につきましては、パチスロ規制強化の影響による買い控えにより伸び悩みました。

この結果、当事業部門の売上高は44億37百万円(前

年同期比28.7%減)、営業利益3億75百万円(前年同期比43.4%減)となりました。

当期につきましては今後、パチンコ玉貸機ユニット及びメダル貸機の販売が共に、パチンコ業界における遊技人口の減少並びにパチスロ新基準適合機への対応問題の影響で非常に厳しい状況となっており、売上の伸び悩みが懸念されますため、経費削減、開発体制の一層の強化により収益の向上に努めます。

● スポーツ事業部門

スポーツ事業部門は、国内におきましては、原材料価格の高騰及びゴルフ規則の改正による高反発素材の規制による買い控えなど厳しい環境の中、4軸織物の軽量シャフト「AXIV(アクシブ)」シリーズの「AXIV-V」、そして海外で好評をいただいております「PROFORCE(プロフォース)」シリーズの「PROFORCE V2」が健闘しました。一方、海外では、同じく「PROFORCE V2」がPGAツアープロに浸透し、引き続き好調に推移しました。

この結果、当事業部門の売上高は18億79百万円(前年同期比12.5%増)、営業利益3億17百万円(前年同期比169.3%増)となりました。

当期につきましては今後、引き続き「AXIV」シリーズ及び「PROFORCE」シリーズの拡販に努力し、一層の収益向上に努めます。

中間連結貸借対照表

単位：百万円

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成19年9月30日現在	平成18年9月30日現在	平成19年3月31日現在
● 資産の部			
流動資産	9,764	9,634	9,894
固定資産	1,093	1,796	1,081
有形固定資産	683	616	630
無形固定資産	11	14	12
投資その他の資産	398	1,165	438
資産合計	10,857	11,430	10,976
● 負債の部			
流動負債	3,611	5,620	4,254
固定負債	1,835	2,464	2,199
負債合計	5,447	8,085	6,454
● 純資産の部			
株主資本	4,967	2,902	4,149
資本金	3,958	3,958	3,958
利益剰余金	1,037	△ 1,026	217
自己株式	△ 28	△ 29	△ 27
評価・換算差額等	442	442	373
純資産合計	5,409	3,345	4,522
負債、純資産合計	10,857	11,430	10,976

中間連結損益計算書

単位：百万円

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成19年4月1日から平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	6,317	8,653	16,336
売上総利益	1,869	2,131	4,081
営業利益	693	475	1,295
経常利益	648	226	1,239
税金等調整前中間(当期)純利益	913	8,459	9,799
中間(当期)純利益	819	8,441	9,711

中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成19年4月1日から平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 14	△ 2,092	△ 2,545
投資活動によるキャッシュ・フロー	610	4,792	5,690
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 410	△ 2,829	△ 3,134
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△ 9	△ 1
現金及び現金同等物の増減額	189	△ 139	8
現金及び現金同等物の期首残高	3,926	3,918	3,918
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	4,116	3,778	3,926

中間連結株主資本等変動計算書

当中間期（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）

単位：百万円

	株 主 資 本				評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成19年3月31日残高	3,958	217	△ 27	4,149	373	373	4,522
当中間期変動額							
中間純利益		819		819			819
自己株式の取得			△ 1	△ 1			△ 1
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）					69	69	69
当中間期変動額合計	—	819	△ 1	817	69	69	887
平成19年9月30日残高	3,958	1,037	△ 28	4,967	442	442	5,409

中間単体貸借対照表

単位：百万円

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成19年9月30日現在	平成18年9月30日現在	平成19年3月31日現在
● 資産の部			
流動資産	7,708	7,917	8,240
固定資産	1,047	1,882	1,046
有形固定資産	219	197	193
無形固定資産	10	13	12
投資その他の資産	817	1,671	840
資産合計	8,756	9,800	9,287
● 負債の部			
流動負債	3,461	5,481	4,256
固定負債	1,835	2,464	2,199
負債合計	5,296	7,945	6,455
● 純資産の部			
株主資本	3,459	1,854	2,831
資本金	3,958	3,958	3,958
利益剰余金	△ 470	△ 2,077	△ 1,099
自己株式	△ 28	△ 26	△ 27
純資産合計	3,459	1,854	2,831
負債、純資産合計	8,756	9,800	9,287

中間単体損益計算書

単位：百万円

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成19年4月1日から平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から平成18年9月30日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	4,771	7,308	13,768
売上原価	3,664	5,669	10,756
売上総利益	1,107	1,639	3,011
販売費及び一般管理費	710	1,201	1,956
営業利益	397	437	1,054
営業外収益	56	50	166
営業外費用	107	240	302
経常利益	346	248	918
特別利益	322	8,290	9,158
特別損失	37	0	558
税引前中間(当期)純利益	631	8,538	9,518
法人税、住民税及び事業税	2	2	4
中間(当期)純利益	628	8,535	9,513

中間単体株主資本等変動計算書

当中間期（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）

単位：百万円

	株 主 資 本					純資産合計
	資本金	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
平成19年3月31日残高	3,958	△ 1,099	△ 1,099	△ 27	2,831	2,831
当中間期変動額						
中間純利益		628	628		628	628
自己株式の取得				△ 1	△ 1	△ 1
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）						0
当中間期変動額合計	—	628	628	△ 1	627	627
平成19年9月30日残高	3,958	△ 470	△ 470	△ 28	3,459	3,459